

IR ニュース

2024年3月 <第12号>



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

はじめに

IR ニュースは、IR(Institutional Research)に関する本学の現状と動向を定期的に発信することで、IR への理解と関心を高めることなどを目的として発行しています。2018年の創刊号から数えて第12号となります。今回は2023年のIR室の活動を中心に報告します。

過去のIR ニュースは次のURLに掲載されています。

<https://www.fukuyama-u.ac.jp/ir-room/>

IR室の業務は、「福山大学IR室規則」に福山大学の様々なデータ及び情報を収集して管理・分析等を行い、本学の運営とブランディングに係る意思決定や改善を支援すること、と定められています（具体的には学生の教育、就職、入学試験、研究や社会連携などに関わる各種データを体系的・経年的に収集・集約し、管理することです）。

収集に関して、データ等を保管・管理するシステムとして「キャビネット Karin」が整備されています。IR室では、利用者の責務やアクセス権限の設定や許可などの定められた「キャビネット Karin 利用内規」に基づいて運用しています。年に1か月程度の利用強化期間をもうけて、学部学科、センター、委員会等にキャビネット Karin の利用促進をお願いしています。

分析に関しては、関係する委員会・センター等と連携して分析を進め、分析結果を連携先と共有し、点検・改善に有効に活用されるようにしています。活動及びその成果は学内外へ発信しています。

IRer 募集中

私たちと共にデータ分析にご協力いただける方を募集中です。

目次

1 はじめに

2 活動報告

- ・ 授業に関する経験的認識の可視化
- ・ f-GPA(functional GPA)と従来型GPAの比較
- ・ アセスメント・ポリシーの検証
- ・ 入試区分と入学後の成績を用いた分析
- ・ 入試データと入学後の成績データとの関係分析
- ・ 入試データと資格試験合否等の関係分析
- ・ 福山大学・福山平成大学合同IR研修会

3 令和5(2023)年度の振り返り

活動報告

令和 4(2022)年度末から令和 5 (2023)年度末までの IR 室で実施した分析に関する活動を以下にまとめています。

・授業に関する経験的認識の可視化

令和 5(2023)年 3 月に「授業に関する経験的認識の可視化」をテーマとして学内研修会を開催しました。この研修では、授業の評価結果（成績）の分析結果を参加者で共有しました。IR 室から”成績評価結果からみる遠隔授業と対面授業の教育効果”、”各学科の成績評価の比較とそこから読み取れる傾向と点検・考察ポイント”を参加者へ提供しました。学科・大学教育センターからはそれぞれの成績評価の傾向や傾向に基づく考察が述べられました。

詳細は IR 室 HP からご覧ください。

<https://www.fukuyama-u.ac.jp/ir-room/>

<https://www.fukuyama-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/09/%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8202303.pdf>

content/uploads/2023/09/%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8202303.pdf

詳細なデータはキャビネット Karin にて学内限定公開しています。

・f-GPA(functional GPA)と従来型 GPA の比較

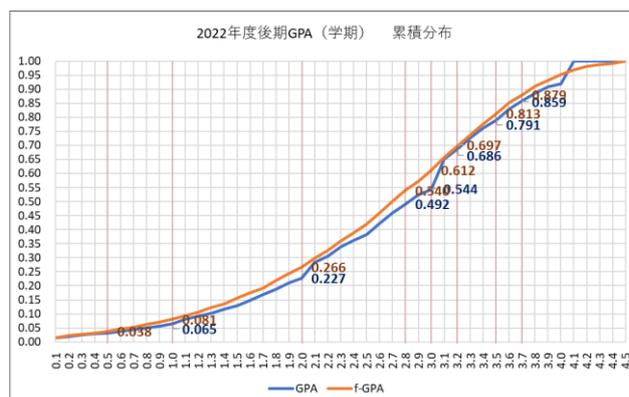
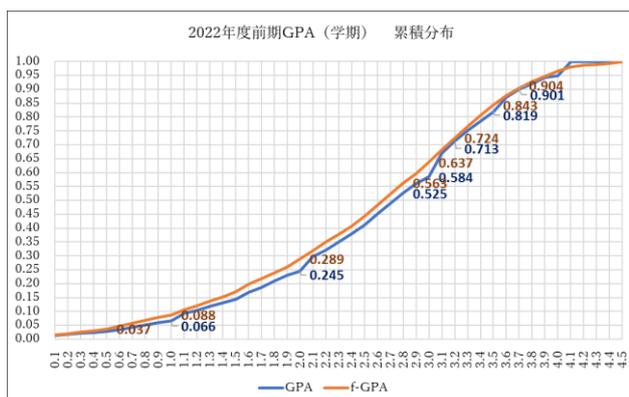
教務委員会との共同プロジェクトとして、f-GPA(functional GPA)導入に伴う従来型 GPA との乖離をシミュレーション分析しました。f-GPA とは、各科目の GP(Grade Point)を

$$GP = \frac{\text{成績素点} - 55}{10}$$

とする計算方法のことで、従来型 GPA と比較して、GP に成績素点がより精密に反映されるという特徴を持ちます。本学では令和 7 年度から f-GPA の導入が検討されておりますが、それに先立ち、f-GPA と従来型 GPA との比較分析を行いました。

2022 年度在学生の成績データをもとに、f-GPA を学生ごとに計算し、その平均値を計算したところ、f-GPA は従来型 GPA に比べて平均値が 0.0795 低下することが分かりました。両者の乖離の主たる要因は、現在の成績素点において 60 点、70 点、80 点、90 点といった評価ボーダー素点の割合が非常に高いことで、この素点分布の歪みにより f-GPA が従来型 GPA よりも低下することが判明しました。

その後、これらの分析結果は教務委員長とも共有したうえで、従来型 GPA を基準として設定されてきた各種要件（成績不振者の個別学習指導要件、一般奨学生の選考基準、各種実習科目の履修要件、学長賞の選考基準など）を f-GPA のもとで再検討する作業を行っています。



・ アセスメント・ポリシーの検証

大学教育センターと連携し、学科アセスメント・ポリシーの機能性を点検しました。カリキュラムや教授方法の改善が重ねられたため、評価値の上限に到達した項目が増えており、新たな目標設定を行う必要ありと判断され、IR室では、評価値の算出方法について複数の案を作り、シミュレーション結果を大学教育センターへ報告しました。IR室のシミュレーション結果の一部を下に示しています。

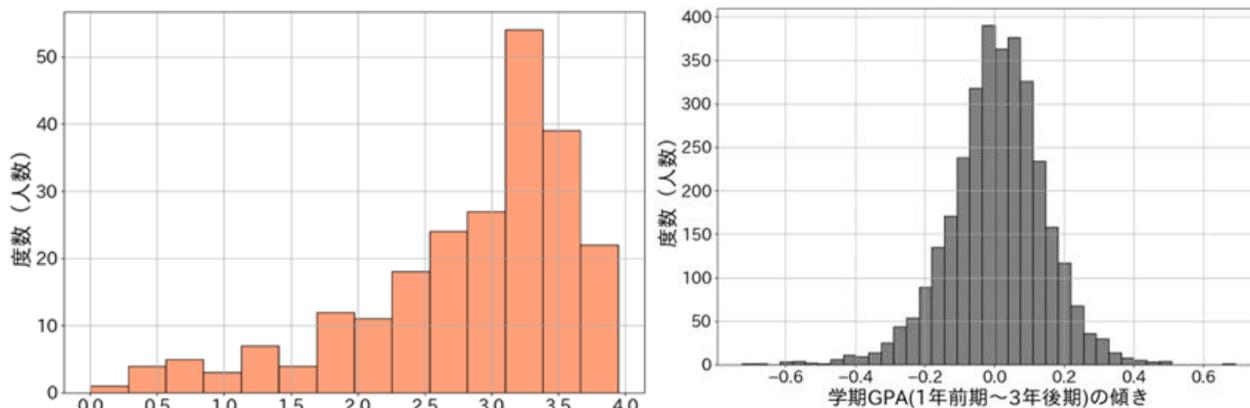
なお、この報告の後、大学教育センター部門長等連絡会議・運営委員会で議論し、各学科で個別の状況を踏まえて更に検討され、修得度アセスメント表の見直しが行われました。



・ 入試区分と入学後の成績を用いた分析

ゼルコバに格納されているデータを用い、入試区分と入学後の成績データとの関係について調べた結果、入試区分によって成績の分布が異なることがわかりました。例えば、ある試験区分の入学者の成績の分布は下に示す棒グラフのようになります。このような分析を今後も引き続き進めていくことで、大学入学試験を改善するための手がかりを掴むことを目指しています。

各学生の成績について、1年前期から3年後期までの変化量について調べてみました。その結果が下に示す棒グラフになります。多くの学生は成績を維持していますが、一部の学生は、成績が大きく変化していることがわかります。このように成績の変化を見ることで、学生の勉強意欲の変化や成長の度合いについても評価ができるようになることを期待できます。



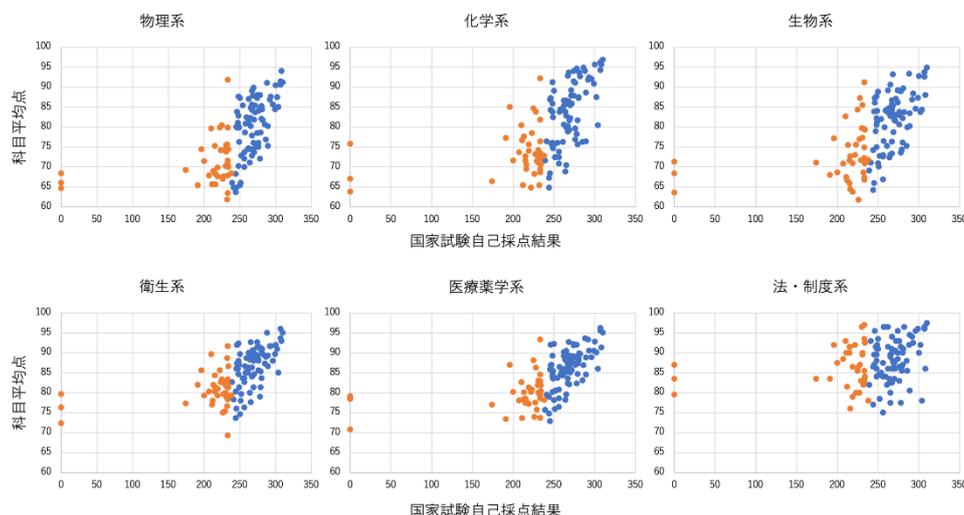
・入試データと入学後の成績データとの関係分析

IR 室の活動の一つとして、入学試験の改善につながる手がかりを見つけるための分析も試みています。今回はその初年度の取り組みとして、入試データの一部を用いて、これと入学後の成績データとの関係について解析しました。その結果、現在の入学試験が多く成績優秀者を入学させていることを確かめたうえで、入学試験のさらなる改善の余地についても検討しました。この分析結果を学長室会議で報告し、各学部長には分析結果を配布し、各学科長には大学教育センター協力のもとに分析結果の説明会を実施しました。これらの結果報告の場で得られた貴重なご意見や改善点を糧にして、今後もさらに分析を深めていきます。

・成績データ等と資格試験合否等の関係分析

薬剤師国家試験の合否点結果と学士課程の成績及び入試データを用いた分析を行い、その結果を学長室会議で報告しました。また、解析結果を薬学部の幹事会で共有し、今後のカリキュラム等への活用方法が議論されました。下に学士課程の成績と国家試験の自己採点を用いた解析結果の一部を示しています。

薬剤師国家試験の自己採点結果と学士課程の成績を用いた分析



・福山大学・福山平成大学合同 IR 研修会

福山大学と福山平成大学の IR に関連する部署が合同で研修会を開催しました。IR に関する活動、手法、学内展開などについて相互に学び合うことを目的とし、令和 5(2023)年 9 月 15 日(金)に開催しました。福山大学 IR 室からは、成績評価に関する分析、アセスメント・ポリシーの妥当性の検討・提案、入試と成績の関係に関する分析等が紹介されました。福山平成大学大学教育センター IR 部門からはアセスメント・ポリシーに関する活動として、各種指標の学習支援システム「セレッソ」による集約、集計の処理、全学教員での共有方法について報告がありました。

両大学が紹介した事例は意味深いものであり、今後の IR 活動に活かせることを相互に確認しました。合同研修は今後も継続していくことになります。

令和 5(2023)年度の振り返り

今年度の IR 室の活動は、情報収集・分析を中心に、IR ニュースにて報告の通り、多岐にわたりました。大学教育センターをはじめとする他部署との連携によって、IR 室で実施された検証や分析が大学全体の運営および改善に活かされました。

IR ニュース<第 12 号>の発行を通じて、本年度の活動成果が広く共有され、IR 室について大学内外の理解が深まり、今後の活動に向けた有益なフィードバックが得られることを IR 室は期待しております。

IR ニュース<第 12 号>
2024 年 3 月 15 日発行
編集 IR 室

編集に携わったスタッフ：片桐 重和、田中 征史、田中 始男、天満 誠也、山本 覚、木平 孝高、記谷 康之、松永 大輝

ご意見やご要望がございましたら、以下のメールアドレスまでお寄せください。

Email : irwg@fukuyama-u.ac.jp

IR ニュース <第 12 号>
2024 年 3 月 15 日発行

編 集	IR 室
編集委員	田中 始男 片桐 重和 記谷 康之

ご意見・ご要望がございましたら
下記までご連絡ください。

Email : irwg@fukuyama-u.ac.jp